



2025年10月15日

各 位

会社名	株式会社イオレ	
代表者名	代表取締役社長兼CEO	瀧野 諭吾
	(コード：2334、東証グロース)	
問合わせ先	取締役CFO	貞方 渉
	(TEL. 050-5799-9400)	

「暗号資産金融事業に関する戦略発表会」投影資料の公開に関するお知らせ

当社は、2025年10月14日付で、以下のとおり、「暗号資産金融事業に関する戦略発表会」を開催※1し、投影資料を公表いたしましたのでお知らせいたします。

詳細につきましては、別紙をご参照下さい。

※1【ご参考(当社ホームページ)】

2025年9月1日付、当社お知らせ「株式会社イオレ 暗号資産金融事業に関する戦略発表会」開催のお知らせ」
<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS02822/125e615d/0563/417f/9043/a9b66f5193f5/140120250901550929.pdf>

以 上



暗号資産金融事業戦略発表会

～Neo Crypto Bank構想によるマスアダプションの実現～



本日のアジェンダ

01 主催挨拶

02 事業戦略発表

03 トークセッション

04 質疑応答(メディア/一般AMA)

05 フォトセッション

06 個別取材

An isometric illustration of a modern office environment. The scene is filled with various elements: people are shown working at desks, in meetings, and walking through the office. There are large digital screens displaying data, a cloud icon with signal waves, a globe, and various geometric shapes and lines representing a network or data flow. The overall color scheme is a vibrant green.

01 | 主催挨拶



瀧野 諭吾

代表取締役社長 兼 CEO

グリー株式会社にてプロダクト開発・事業開発を学び、以降Kaizen Platform、PKSHA Technology、トライステージ、ストリートホールディングスの事業担当、技術担当執行役員を歴任。情報技術を活用した事業戦略立案・事業執行の豊富な経験に基づき、自社事業・クライアントワークの双方で、様々な業界のバリューチェーンの再構築・DXを実現してきた。2025年6月イオレ、代表取締役社長就任。

web3.0 マスアダプションの実現



サトシ・ナカモトの論文発表から16年。暗号資産を含むブロックチェーン市場は経済規模の拡大を続け、上場企業による資産保有やETF承認を通じて、既存金融との接点を急速に強めています。

その一方で、「マスアダプション」ーブロックチェーン技術や暗号資産が生活や産業に浸透するという観点からは未だに現実化に対してのハードルが高いと言わざるをえません。

新たな社会を構成するであろう技術の社会実装、この最後のステージに展開するイオレの事業戦略にぜひご期待ください。

The background is a vibrant blue digital space filled with glowing lines, circles, and data-like patterns. A large, semi-transparent cube is positioned in the upper left, containing a circular chart with a green and blue gradient. Below it, a rectangular panel displays a bar chart with red and yellow bars. To the right, a circular radar chart with multiple concentric rings and a central blue triangle is visible. The entire scene is overlaid with a grid of binary code (0s and 1s) and various geometric shapes like circles and lines, creating a high-tech, data-driven aesthetic.

02 | 戦略発表



暗号資産市場の市場開拓が急速に進む背景

IT・AIによって個人が物理的な距離やアクセスできなかったレイヤーの情報取得を実現。自分自身で取捨選択し、資金・資産を利用・運用する時代へ。

01 専門性の低減

暗号資産トレジャリー企業の出現による投資アクセスのハードル低減や技術会社によるUX/CXの飛躍的向上が加速

02 資産運用の一般化

資産運用・投資などが一部の資産家や企業だけが行うものではなく、一般化し行政もNISAなどの仕組みで後押ししている

03 物価高などの社会背景

急速な円安や物価高、老後の資金問題などにより、日本円だけの所有でなく自分自身で生活資金や資産をバランスングして適切にアロケーションする必要性が顕在化

03 金融のグローバル化

ITの高度化やAIによる個人単位での情報の整理に加え、NASDAQへの日本企業の進出など国外の金融への認知度や距離が急速に発達

04 市場の健全化の加速

国の主導で法整備の進行やライセンス等の適切な規制の実施が進行。大手企業・上場会社などの参入によりガバナンスの聞いた産業へとシフト

05 認知度の拡大

世界中でインフレ対策や通貨分散による財政安定化などを目的にGoldと同様に準備金として暗号資産を導入するにまで市場が成長

Connecting
Ownership, Use,
and Operation

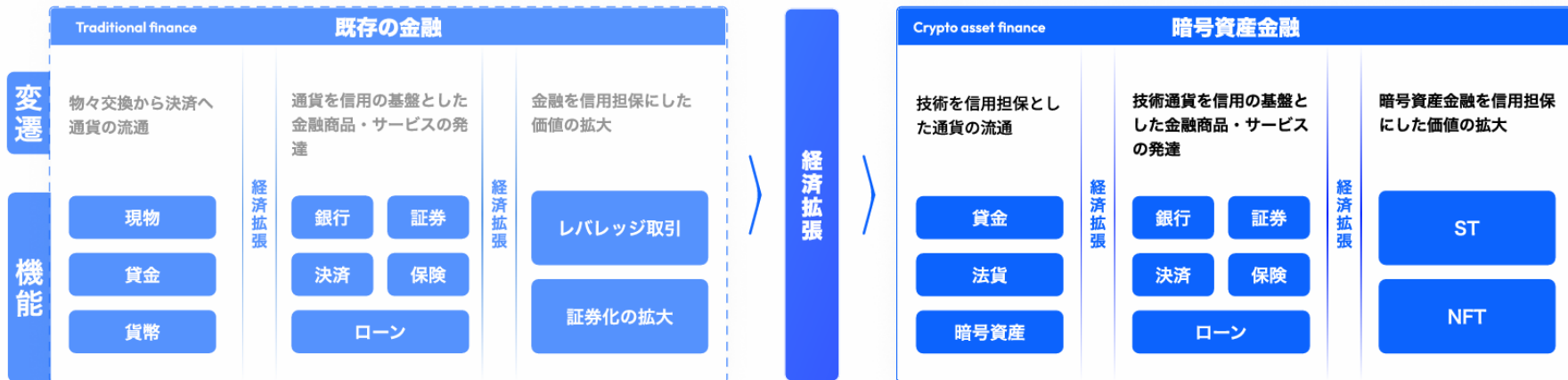
保有 | 利用 | 運用
の接続で実現

暗号資産金融とは / どのように実社会は変化するのか

今までの暗号資産関連プロジェクトの多くは、市場が醸成されていないものを経済的なメリットで強引に展開している点があった。

これからの金融業

The future of finance.



01

グローバルな
金融サービスにアクセス可能

02

次世代の
資産運用が実現

03

新しいマーケティング・
資金調達手法が確立

次世代の金融スタンダードを目指す暗号資産金融事業サマリ

Step 01

DAT

Treasury トレジャリー

株式や社債を使用した資金調達を実施

調達資金は暗号資産の購入に使用

現在はBTCを購入・保管している
が今後は他の銘柄も視野に入れている

Step 02

DAL

Lending レンディング

一定金利を得られる貸付サービスを展開

レンディングサービスをもって運用資金高の拡大を行う

ウォレットに紐づく形での展開を想定

Step 03

DAM

Asset Management マネジメント/運用

トレーディング・レンディング・
ファーマーキング・ステーキングなど
グローバルな金融収益へアクセス

保有する暗号資産を消費しないような内容で構築

Step 04

DAU

Utilization ユーティリゼーション / 活用

トレジャリー・レンディングにより
取得し資産運用により増大した
暗号資産を活用した暗号資産金融
サービスの展開

ウォレットからDefi・STなどにアクセス

Pioneering the Web3.0 Era

Building the Ultimate Super App.

Web3.0領域のスーパーアプリを目指す

Neo Crypto Bank構想が目指す未来

イオレは、金融プラットフォームを土台に、チャット、決済、ショッピング、配車サービスなど、これまで暗号資産と接続できなかった、以下の図にあるような複数の異なる機能やサービスに接続するアプリケーション開発を目指します。

資産保管

01

- ・ 煩雑な手続きが不必要
- ・ 日本円で直接ステーブルコインの取得が可能
- ・ チェーンの越境を実現

送金・決済

02

- ・ 割り勘や集金などの変化の必要な送金に対応
- ・ ペイロールや納税に対応
- ・ 引き落とし決済に対応

外部接続

03

- ・ 外部のサービスアプリなどに決済をベースに接続
- ・ ホテルのチェックインや飲食店決済システムと連携
- ・ Defiサービス

資産運用

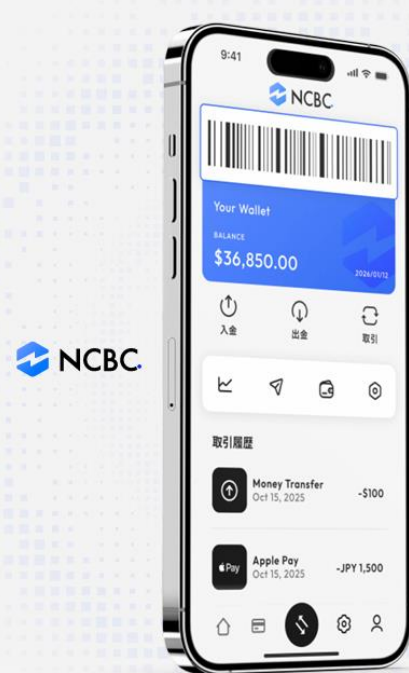
04

- ・ グローバルなプロフィットにアクセス可能
- ・ レンディング機能
- ・ web3.0投資
- ・ ステーキング・Defi・ST・STO・NFT・ICO・IEO etc..



Neo Crypto Bank構想が目指す未来

分散金融によるセルフカस्टディの実現により、生活と資産運用がボーダレスに行うことができるように。
イオレのAI事業による機能のAIインテグレーションも実装予定。



NCBC

01 02 03

資産保管/送金・決済/
外部接続

04

資産運用

NCBC × SLASH VISION

NCBC × Slash

SLASH VISIONとの提携で実現

※2026年にイオレ NCBCでのカード発行についてもSLASH VISIONと進行中



NCBC × J-CAM

NCBC × J-CAM

J-CAMとの提携で実現

※運用スキームについては適法かつ必要な行政手続き等完了した上で進行します

J-CAM
Japan Change Asset Management

APY:7%~10%

 BTC	 ETH	 XRP	 SOL	 USDT	 USDC	 DAI
8%	8%	7%	7%	10%	10%	10%
+	+	+	+	+	+	+

※表示はJ-CAM社のレンディングサービスの実績

AIエージェントの接続によりEC／資産運用における顧客体験も変革していく

EC／資産運用における課題

EC

価格や条件比較の大変さ
詐欺などの安全性懸念
膨大な商品情報・口コミ等

資産運用

投資商品・資産運用関連情報の洪水
詐欺やリスクなどの懸念
条件や自身への適合性等の検討の負担

Issues in EC and Asset Management



ストレスフリーで自分にあったベストな商品を最適な価格・条件で購入可能

EC

好みに合わせたパーソナライズ
安全なリテラーのみ選別
自動で価格、セール等の条件を比較



安心安全に自分にあったベストな運用商品を選択し、最適な条件で運用可能

資産運用

ニーズに合わせた投資商品選別
安全な投資先の選別、リスク評価
コストや利回り、リスク等を評価し最適化



イオレ推論特化DC



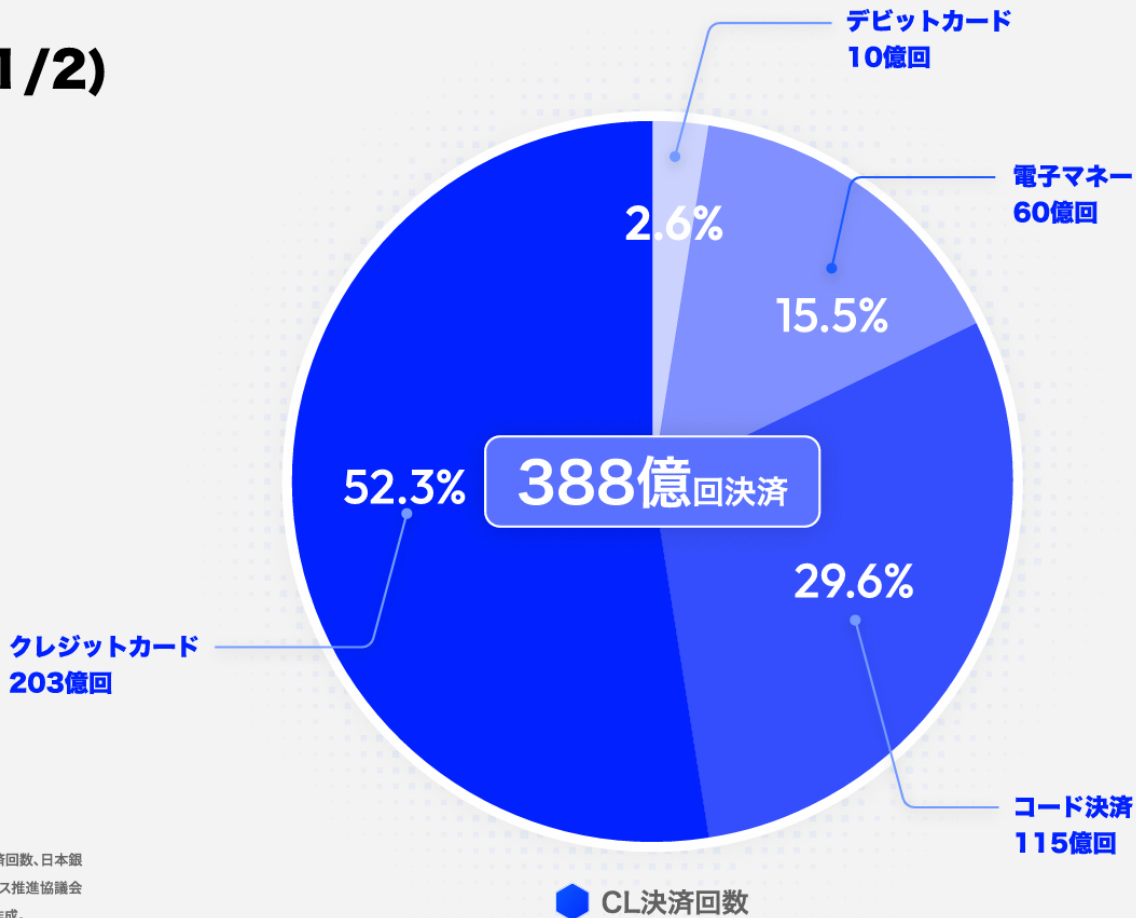
市場開拓に関する数値目標(1/2)

2027年度末まで

にキャッシュレス決済市場の1%シェアである

4億回決済達成を目指す

一般社団法人日本クレジット協会公表資料「月次調査:クレジットカード動態調査」よりクレジットカードの決済回数、日本銀行公表資料「決済動向 2025年1月」よりデビットカードと電子マネーの決済回数、一般社団法人キャッシュレス推進協議会公表資料「コード決済利用動向調査 2025年3月14日公表」よりコード決済回数を合計、PayPay調べ、イオレ作成。



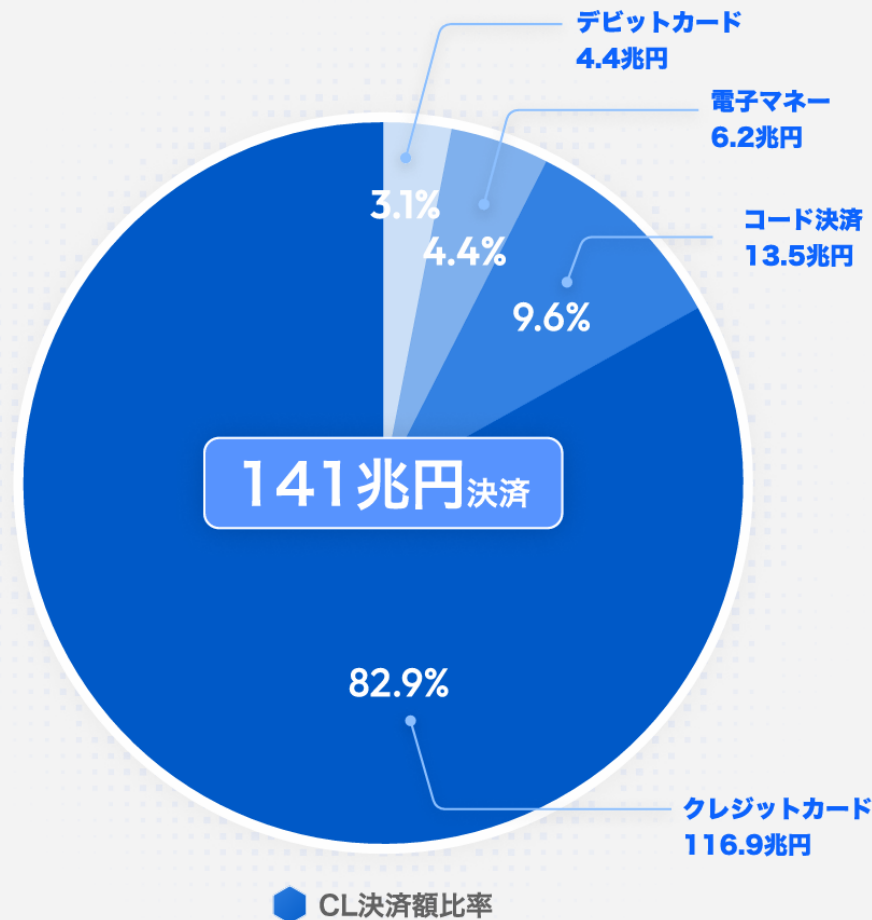
市場開拓に関する数値目標(2/2)

2027年度末まで

にキャッシュレス決済市場の1%シェアである

1.2兆円決済達成を目指す

一般社団法人日本クレジット協会調査「指定信用情報機関に登録されている実数値」よりクレジットカード支払額、日本銀行「決済システムレポート」・「決済動向」よりデビットカード支払額、日本銀行「決済動向」より電子マネー支払額、一般社団法人キャッシュレス推進協議会「コード決済利用動向調査」よりコード決済支払額、経済産業省調べ、イオレ作成。



流動性担保のための資金準備:DAT/DALの目標数値



※PayPayの2018年～2021年の実績参考 / ※KPI達成200%までの順位資金で作成 / ※流動性準備資金を決済取扱高の20%で計算

今後の暗号資産トレジャリー(DAT)で重要なポイント

01 購入され保管されている資産である暗号資産の使用用途が不明

保有する暗号資産運用を行う企業が少しずつ増えているがこれだけでなく事業活用領域まで企業が踏み込めるのかという点が非常に重要になってくる。

02 規制・ガバナンス体制の整備

現状は規制や行政のガイドラインなどが間に合っている状況とはいえないが、今後適切な規制等による投資家保護や、企業ガバナンスが求められる可能性が高い。

特に上場企業において、暗号資産トレジャリー事業における意思決定プロセス、リスク管理体制、内部統制などのガバナンス体制について、適切な構築を求められると考えられますが、急速に参入企業が増える中、日本国内では明確な指針を開示していない上場企業も多いと言えます。

Purpose-Driven
Investment

ただ買うだけでなく、
「なぜ買うのか(事業上の社会的責任)」
「ガバナンスは適切か」
といった上場会社としての存在意義を
問われるようなステージにきている。

ロードマップ



The background is a vibrant blue digital space filled with various data visualization elements. A large, semi-transparent cube is positioned in the upper left, with a circular chart and a line graph overlaid on its faces. The chart has a green and blue arc, and the line graph shows a fluctuating trend. In the lower left, a rectangular bar chart with red and yellow bars is visible. To the right of the cube, there are several concentric circles and arcs, some with glowing points. The entire scene is overlaid with a dense pattern of binary code (0s and 1s) and glowing blue and yellow lines that suggest a network or data flow. The overall aesthetic is high-tech and futuristic.

03 | トークセッション

ゲスト登壇者

三根 公博 氏

株式会社finoject 代表取締役CEO



1968年佐賀県嬉野町（現嬉野市）生まれ。一橋大学法学部卒業後、日本興業銀行（現みずほ銀行）入行。その後、松井証券、SBIイー・トレード証券（現SBI証券）、マネックス証券、コインチェックなど大手金融・暗号資産交換業の役員を歴任。bitFlyerでは代表取締役/一般社団法人日本暗号資産取引業協会（JVCEA）会長就任、日本の暗号資産市場の礎を築く。現在、株式会社finoject代表取締役CEOとしてWeb3×金融を中心としたコンサルティングを行う。JPYC株式会社社外取締役、Backseat株式会社監査役現任。

池田 英樹 氏

SBI VC トレード株式会社 執行役員 CTO（最高技術責任者）



日本の金融業界におけるリーディングカンパニーでプロジェクトマネジメントに従事し、数多くのプロジェクトを成功を導いてきた。ブロックチェーンビジネスの分野でもテクノロジー戦略やアーキテクチャに関する幅広い知見を有しており、現在はSBI VC Tradeにて執行役員(CTO)を務め、国内外の暗号資産市場の普及のため尽力する。

天羽 健介 氏

Animoca Brands Japan（企業名：Animoca Brands株式会社）代表取締役社長CEO



2007年株式会社リクルート入社。複数の新規事業開発を経験後、2018年コインチェック株式会社入社。主に新規事業開発や暗号資産の新規取扱、業界団体などとの渉外を担当する部門を統括。2020年より執行役員として日本の暗号資産交換業者初のNFTマーケットプレイスや日本初のIEOなど、複数の新規事業を創出。2021年コインチェックテクノロジーズ代表取締役、2022年6月にコインチェックの常務執行役員に就任。Web3領域の新規事業をリード。2024年2月よりAnimoca Brands Japanの副社長COO、同年12月より代表取締役社長CEOを務める。2025年6月、一般社団法人日本暗号資産ビジネス協会の理事に就任。著書に『新NFTの教科書』『ノンファンジブルミー』（朝日新聞出版）。

テーマ：暗号資産の未来

Q1 : ステータブルコイン

Q2 : 暗号資産トレジャリーと金融拡大

The background is a vibrant blue digital space filled with various data visualization elements. A large, semi-transparent cube is positioned in the upper left, with a circular chart and a bar chart overlaid on its faces. The circular chart has a green and blue arc, and the bar chart shows red and blue bars. A large, glowing orange circle with a white center is located in the lower right. Numerous glowing lines, circles, and dots in various colors (blue, green, orange, red) are scattered throughout the scene. The overall aesthetic is high-tech and futuristic.

04 | 質疑応答



05 | フォトセッション



06 | 個別取材